

教育学部養護教諭養成課程（教職科目）カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	<p>①専門的な深い知識の修得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 <p>②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 <p>③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢 				
年次	授業科目	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	教職入門 I	教育をめぐる現状と課題を理解し、大学における学修や研究への展望を明らかにし、教職への意欲を高める。	◎	○	◎
1	教育学概説 A (本質)	教育の理念・思想・歴史についての基礎的な知識を身につけ、教育という営みを多角的に理解するとともに、昨今の教育改革の動向や、教育をめぐる現代的な諸問題に対し、積極的に考察しようとする態度と、考察のための具体的な視点を学ぶ。	◎	○	◎
1	教育学概説 B (制度)	教育制度、教育法規に関する基本知識を身につけ、日常の教育活動における「制度」のもつ役割と意義を学習する。また、学校・学級経営の観点から、教育委員会や教員に求められている役割について考察する。	◎	○	◎
1	道徳教育論	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の位置づけの変遷を押さえ、現代における道徳教育の課題について理解する。 ・中学校における道徳教育の意義と目標を理解する。 ・子どもを取り巻くさまざまな課題と道徳教育の関係について考える。 ・中学校における道徳の授業づくりのポイントを理解し、実際の授業案の作成と授業づくりができるようになる。 	◎	○	◎
1	特別活動論	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における特別活動に関する基礎理論を学ぶ ・中学校の特別活動の教育実践に必要な基礎知識を習得する。 ・中学校の特別活動の実際を批判的に検討し、その発展を構想しうる新たな視点を習得する。 	◎	○	◎
1	教育心理学概説	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期・児童期・青年期の子ども心身の発達過程について学ぶ。 ・発達障がいの子どもの特徴について理解する。 ・特別支援教育に関する基礎知識を獲得する。 ・学習過程の基礎としての動機づけや記憶・思考について理解を深める。 	◎	○	◎
1	総合的な学習指導法	総合的な学習の時間の目標や意義について理解し、その趣旨に沿った学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	◎	○	◎

1	ICT活用の理論と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員として、教授活動全般および学級・学校経営における問題解決の手段の一つとして情報技術を活用することができるICT活用指導力を高めるための見方考え方を知る ・学校教員が持つべき資質能力の一つとしての情報活用能力として、手段と目的を区別する見方、教育目標のよりよい達成のためにICT活用の考え方を知る ・実際によりよい教育目標達成のためにICT活用を工夫した授業の設計と模擬授業の実習体験を通して座学での学びを深める 	◎	○	◎
2	教職入門Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の概要や指導（授業案の作成等）についての理解を深める。 ・参観実習においては指導の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。 	◎	○	◎
2	教育方法・課程論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者としての自覚を持って、中等教育におけるよい授業とは何かを考えることができるようにする。 ・よい授業を創っていく上で必要な知識・技能と基礎理論を身に付ける。 ・授業を構成し、実践し、その実践を振り返ることのできる力量を身につける。 	◎	○	◎
2	生徒・進路指導論	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の生徒にとっての学校の意味と、そこでの活動及び生徒指導と進路指導について理解する。 ・教師にとっての生徒指導と進路指導の意味について理解する。 ・地域社会の中での子どもの育ちとそこでの支援について理解する。 	◎	○	◎
2	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期・青年期の心理的特徴について理解する。 ・教育の課題である不登校、いじめ、非行等の問題について、実態を知り、対応方法を学ぶ。 ・教育相談の実態を知り、教育相談の在り方について、具体的な場面を通して学ぶ。 ・全生徒を対象とした予防的・開発的心理教育の意義と手法を学ぶ。 	◎	○	◎
2	保健科指導法A	保健学習の教授行為と学習者の学習プロセスについて理解する。	◎	○	◎
2	保健科指導法B	中等教育を中心とした保健科教育内容・教材等の研究動向について理解する。	◎	○	◎
2	養護教諭基礎実習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の概要や指導（授業案の作成等）についての理解を深める。 ・参観実習においては指導の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。 	◎	○	◎
2	介護体験実地	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する意識を深めることを目指す	◎	○	◎
3	特別支援教育基礎論	<p>特別支援教育の理念や意義、および、そのシステムの概要を理解する。</p> <p>①障害という状態や概念について理解する。</p> <p>②特別支援教育の歴史、理念、システムについての基礎的な事柄を理解する。</p> <p>③特別支援教育の対象となる障害の特性および基本的な対応について理解する。</p> <p>④障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもへの支援について理解する。</p>	◎	○	◎
3	保健科指導法C	保健授業（保健学習）内容の特徴と授業構造について理解する。	◎	○	◎
3	保健科指導法D	保健学習の模擬授業等をととして、実際の授業への実践力・応用力を習得する。	◎	○	◎
3	養護教諭応用実習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や指導案の作成の仕方、発話の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、指導後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。 	◎	○	◎
4	教職実践演習（養護教諭）	学校教育や研究会等の場で、実践と研究の相互関連を学ぶとともに、教育専門職としての養護教諭の自覚を深め、資質能力の向上を図ることができる。	◎	○	◎

教育学部養護教諭養成課程（専門科目）カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としてつづ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	衛生学・公衆衛生学 A	衛生公衆衛生学の基礎的知識の習得	◎	◎	○
1	健康行動論	健康行動を促進するための動機づけ理論と行動変容理論について知識を得る。	◎	◎	○
1	小児保健学	子どもが健やかに過ごすためにはどうしたらよいかを授業を通じて考え実践できる知識や行動力を身につける。	◎	◎	○
1	発育発達論	学校教育を受ける幼児、児童、生徒、学生の心身の発育、発達について要点を述べる事が出来る。	◎	◎	○
1	養護概説	養護の理念並びに教育職員としての基本原理について理解を深め、養護実践を進める上での基礎を習得することができる。	◎	◎	○
1	栄養学(食品学を含む)	栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解する。学んだ知識を実際の生活に活用する能力を身につける。	◎	◎	○
1	解剖生理学 A	教育現場で実際に使える解剖学（肉眼解剖学）、生理学の知識を身につけることを到達目標とする。	◎	◎	○
1	解剖生理学 B	教育現場で実際に使える解剖学（組織学）、生理学の知識を身につけることを到達目標とする。	◎	◎	○
1	解剖生理学実習	自分自身の体が実際にどのようなメカニズムで変化しているのかを知り、実践することで現場で理論的に使える知識を身につけることを到達目標とする。	◎	◎	○
1	スポーツ医学	スポーツ活動に伴う健康障害やスポーツ傷害などの発生を未然に防止するための解剖生理学的及び医学的知識を獲得する。	◎	◎	○
1	微生物学（免疫学を含む）	基本的な専門知識を習得することが第一であるが、同時に、身近な健康問題に対して科学的根拠に基づいて判断する感覚を身につけることを、もうひとつの目標とする。	◎	◎	○
2	衛生学・公衆衛生学 B（予防医学を含む）	人間集団における健康問題に対して、予防を中心とした科学的解決を目指す力を習得する。	◎	◎	○
2	学校保健・（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む）	小児の発育発達、児童生徒の健康の維持増進のための保健管理及び安全管理、保健教育、安全教育の基本を理解する。また、児童生徒の健康課題と救急処置など緊急時対応について基本的な知識を獲得する。	◎	◎	○
2	特別支援教育概論	障害児の教育をめぐる歴史を踏まえ、発達保障とそれに向けた教育の意義について考察できる。	◎	◎	○
2	養護活動論	人間観、健康観、教育観をもち、発達過程にある児童生徒を理解し、養護実践を行うために必要な知識、方法を習得することができる。	◎	◎	○

2	薬理概論	薬の生体への作用機序について学ぶと共に、薬理学が養護教育にどのように関わっているのか、またどう役立てていくのか理解・把握する。	◎	◎	○
2	精神保健	教員として必要な精神医学・精神保健の知識を身につける。	◎	◎	○
2	救急処置	災害・事故・犯罪から身を守る方法を理解できる。救急処置方法を理解できる。	◎	◎	○
2	救急処置実習	子どもたちの命を守るための最低限の応急処置(心肺蘇生法、他)が、模擬受傷者に対して出来るようになる。	◎	◎	○
2	臨床医学概説A	小児期における最新の臨床医療の基礎的な知識を習得する。	◎	◎	○
2	臨床医学概説B	小児期における最新の臨床医療の応用的な知識を習得する。	◎	◎	○
2	社会福祉学概論	社会福祉の全体の領域について幅広く考える素養を身につける。特に「自立」や「当事者参画」はキーワードであり、授業全体で強調すると共に、その意義、昨今の時代背景などを理解してもらいたい。	◎	◎	○
2	児童福祉論	・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ(子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。 ・児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解する。 ・教育・支援において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。 ・教育・支援において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービスについて理解する。 ・児童・家庭への相談活動の実際について理解する。	◎	◎	○
3	学校保健活動論	児童生徒の疾病および健康障害の予防と対応、学校環境衛生、現代的な健康問題への対応等の実際について理解する。	◎	◎	○
3	学校保健調査法	養護教諭および保健担当教員としての教育実践に向けた調査法の基礎、および、調査結果の活用について理解する。	◎	◎	○
3	学校保健研究A	教育現場における健康課題を見だし、児童生徒の保健管理と健康教育について、基本的知識を獲得する。	◎	◎	○
3	学校保健研究B	学校保健に関する含まれる多様な研究課題について探求し、研究を実施するうえでの知識とスキルを獲得する。	◎	◎	○
3	学校保健研究C	教育現場における健康課題を見だし、児童生徒の保健管理と健康教育について、基本的知識を獲得する。	◎	◎	○
3	学校保健研究D	学校保健に関する含まれる多様な研究課題について探求し、研究を実施するうえでの知識とスキルを獲得する。	◎	◎	○
3	健康相談活動論	養護教諭の専門性と保健室の機能を活かした養護教諭が行う児童生徒への健康相談の目標及び進め方について理解することができる。	◎	◎	○
3	健康相談活動演習	個別の児童生徒の健康実態から健康課題を捉え、課題解決に向けた養護教諭が行う健康相談を展開することができる。	◎	◎	○
3	学校看護学	様々な症状の発生メカニズムを理解できる。症状を適切に評価し、適切な対処方法を理解できる。	◎	◎	○
3	学校看護学演習	バイタルサインを正確に測定できるようになる。保健室で必要となる基礎的な看護技術を、模擬患者に対して提供できるようになる。	◎	◎	○
3	臨床実習	医療機関の組織及び医療チームを構成する各職種の機能を理解し、将来養護教諭としての医療機関との連携・調整の重要性を学ぶ。 患者の心身の状況を理解し、提供されている基礎的な看護内容を理解する。 患者、家族、保健医療従事者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。	◎	◎	○
4	論文	論文作成の基礎知識を習得し、学校保健に関する卒業論文を作成する。	◎	◎	○